

評価者	こどもみらい部長	進藤 勝
-----	----------	------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	子育て支援施設の整備
目標とすべきま ちの姿	子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、すべての子どもたちが健やかでのびのびと成長できる環境が整っています。また、保育施設の整備が進み、待機児童数が減少しているとともに、子どもの家(学童保育)の利用者数の増加に対応した施設の整備が図られています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	22.8%	平成27年度	24.9%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方		お金の使い方		<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が、平成27年度は35.9%と、選択肢の中では最も多くなっているが、次の多い回答である、お金の使い方は「足りない」、仕事の効果は「不十分」という回答が20.9%にのぼり、市民意識においては、更なる対応の期待が潜んでいることが伺われる。</p> <p>平成26年度との比較を行った場合に、「全体における位置」において、市全体の施策方針における「ちょうどよい」という回答値が大きく低下しており、お金を使い方を「足りない」とする回答、仕事の効果を「不十分」とする回答が微増ではあるものの、それぞれ増加していることから、子育て分野に対する市民意識に変化があり、これを反映した結果であると考えられる。</p>	
仕事の効果		使いすぎ	ちょうどよい		足りない
	必要以上の効果	2.8%	0.9%		0.2%
	ちょうどよい	1.7%	38.9%		2.6%
効果不十分	2.9%	2.2%	18.9%		
	平成26年度	平成27年度			
全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)					

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	30.3%	37.9%	3.8%	28.0%	100.0%
平成27年度	30.9%	36.6%	2.3%	30.2%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

待機児童解消に向け、現在整備を行っている岡本保育園の新園及び明照フラワーガーデン保育園の早期開所による入所枠の拡充を図り、平成28年度以降に整備が予定されている聖アンの園の建替え、材木座保育園・稲瀬川保育園の統合保育園となる、(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けた諸手続きを円滑に推進する。さらには、利用者支援事業の実施や、一時預かりや延長保育事業などの地域子ども・子育て支援事業について、利用者が円滑に利用できるよう目指していく。

腰越子ども会館・子どもの家の建替え及び子育て支援センターを併設する(仮称)玉縄こどもセンターの建設を完了する。

学校から距離があるにしかまくら子どもの家及びいわせ子どもの家については、学校を活用した放課後子ども総合プランの導入等、教育委員会、学校等と協議を進めていく。

子育て支援センター及び障害児放課後余暇施設を併設する(仮称)由比ガ浜こどもセンターに着工する。

「岡本二丁目用地活用基本計画」に示す複合施設の整備を円滑化することを目的とした「施設整備の基本計画」を策定する。

大船及び山崎子どもの家の増床を完了する。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
こども-06	子ども会館・子どもの家整備事業	1,242	27,534	5,263	36,589	0.5	1.1	b	A
こども-07	公立保育所整備事業	102,917	58,931	113,371	73,748	1.3	1.8	b	C
こども-08	子育て支援施設等整備事業		0		11,524		1.4	b	A
こども-15	私立保育所等整備事業	133,994	156,110	142,036	163,883	1.0	1.0	b	B
こども-25	子ども会館・子どもの家整備事業	10,238	16,617	27,745	28,883	2.2	1.5	a	A

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

公立保育所の維持管理に努めるとともに、私立保育所等への給付等扶助費の支弁及び補助金交付を行った。また、新園整備のための補助事業を実施し、待機児童解消に向けた取組を行った。(こども-07・17)

腰越子ども会館・子どもの家の建替え工事については、課題となっていた道路後退工事に伴う電柱の移設が、電力会社等関係事業者とを協議のうえ完了したことにより、建替えに係る全ての工事が完了し、平成27年12月に施設を開館した。(こども-08・27)

にしかまくら子どもの家およびいわせ子どもの家は、西鎌倉・今泉小学校から離れているため、各小学校内もしくは小学校周辺への移転に向けて、教育委員会、学校等々の関連機関と協議を進め、概ね整っている。(こども-08・27)

鎌倉地域においては、子育て支援センター及び障害児放課後余暇施設を併設する(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けて、建設予定地にあった旧鈴木邸の解体工事及び同センターの設計業務委託を完了させた。また、建設工事に先立ち必要となる埋蔵文化財調査に着手した。(こども-09)

玉縄地域においては、子育て支援センターを併設する玉縄こどもセンターとして岡本保育園の建て替えを完了させるとともに、保育園の定員を90人から100人に増加させた。(こども-09)

「岡本二丁目用地活用基本計画」に示す「子ども・子育て支援機能」、「市民活動支援機能」、「交流機能」を有する複合施設を整備するために、設計業務へと円滑な橋渡しをすることを目的とし、必要諸室等を具体化し、がけ面の安全対策の構造的な検証を行うなどの総合的な視点を加味した「施設整備の基本計画」の策定に取り組んだ。(こども-10)

待機児童対策として、山崎子どもの家及び大船子どもの家を増床し、利用定員を増員した。(こども-27)

放課後子供教室と放課後児童クラブを一体的に進める放課後子ども総合プランの実施に向けて、庁内検討委員会を設置した。(こども-27)

学童保育(子どもの家)のニーズ量の増加に対応するため、民間事業者に対する市補助金制度を創設した。(こども-27)

【実施できなかった事業とその理由等】

(4) 平成27年度取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

保育所に関しては、待機児童を解消する山崎、大船、腰越の施設増床を行い、受け入れ人数を増やしたが、平成28年度の当初申請において、待機児童が生じる見込みから、二階堂、御成、玉縄の3施設を追加で、施設整備をしたことにより、平成27年度で6施設、利用定員177人、登録でいえば約250人の子どもの受け入れができるよう施設整備を進めた。子育て支援センターを併設する玉縄こどもセンターとして岡本保育園の建替えも完了し、保育園の定員を90人から100人に増加させた。現時点でも、子育て支援センター及び障害児放課後余暇施設を併設する(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けて、計画は進行中である。また、保育所を建設する事業者に対し安心こども交付金事業費補助金を交付した。

障害児支援の拠点施設として、児童発達支援センターあおぞら園の専門性を高めるための人材育成、職員研修プログラムに基づいた園内職員研修を継続的に実施しており、民間の児童発達支援事業所との連携や情報共有についても、障害者福祉課が所管する「鎌倉市児童通所支援事業所連絡会」等への積極的な参加を通じて連携を図っており、市民等との協働事業として、鎌倉女子大学児童学部こども心理学科飯村敦子教授をスーパーバイザーとして、ムーブメントプログラムの療育活動への導入を平成17年度から取り組んだ。

学童施設については、施設の増床等により利用定員を増員したものの、一部の施設では待機児童が発生している状況の中で、にしかまくら子どもの家およびいわせ子どもの家の移設計画については、概ねの協議は整ったものの、学校施設への給排水設備等の敷設状況等を考慮した具体的な建設敷地の決定に至っておらず協議を継続していることや、「岡本二丁目用地活用基本計画」に示す複合施設を整備するために、設計業務へと円滑な橋渡しをすることを目的とした「施設整備の基本計画」の策定が年度内完成に至らなかったことなど、一部取組を継続する事案も残ってはいるが、総体としては、「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、事業費等の経費面からも効果面からも概ね適切な取組を行い、成果が得られたと考えられる。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

子ども会館・子どもの家整備事業については、学童保育のニーズ量を確保するため、積極的に施設整備を進める。また、施設の大規模化に対して、新たな事業展開を図るため、民間事業者への補助金、指定管理制度の導入、放課後子ども総合プランの実施等の取組も含め検討し、ニーズ量の確保に努めていく。

保育園事業については、引き続き、公立保育所の効率的な運用を行うとともに、市内の私立保育所の整備等に対し補助を行い、待機児童の解消や子どもを安心して育てることができる体制整備を図る。

発達支援事業については、市内に居住する発達障害を含む特別な支援を必要とする児童とその家族が、地域で安心して生活できることをめざすため、ライフステージに応じた一貫した継続的な支援を行っていく。

あおぞら園管理運営事業については、市内に複数の民間児童発達支援事業所が設立されている現状をふまえ、鎌倉市における障害児支援の拠点施設として、各民間事業所との連携をより一層図っていくとともに、専門的な立場からの助言や障害児支援に関する情報提供などを積極的に行っていく。また、事業内容の充実や効率的な事業運営の視点を踏まえ、市民等との協働による事業の展開を図っていく。

4 平成28年度の目標

引き続き、聖アンナの園の建替、公立保育園の統合等施設整備を通じて待機児童の解消を図る。また、私立保育所等への効果的な運営支援を行い、安定的な施設運営を維持するとともに、一時預かり、延長保育、病後児保育等多様な保育サービスの充実を図る。

にしかまくら子どもの家およびいわせ子どもの家の学校敷地内への移設に係る学校施設への給排水設備等の敷設状況等を考慮した具体的な建設敷地の決定への課題の整理。

(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けた埋蔵文化財調査の完了及び建設工事に着手する。

「岡本二丁目用地活用基本計画」の策定後に、基本設計等へ移行する。

子どもの家及び子ども会館のあり方を見直し、指定管理制度の導入について検討する。

放課後子ども総合プラン検討委員会において、放課後子ども総合プランの実施に向けた議論を進める。

学童保育の市補助金を活用した、民間事業者の参入を図る。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	子ども-07-10-15	事業名	公立保育所整備事業・子育て支援施設等整備事業・私立保育所等整備事業							
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	目標値	5	3	1	0	0	0			
	実績値	55	50							
	達成率	9.1%	6.0%							
整理番号	子ども-06-25	事業名	子ども会館・子どもの家整備事業							
指標の内容	子どもの家のニーズ量を確保する。					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」では学童保育(子どもの家)のニーズ量の見込みに対して、平成31年度まで確保することを目標としているため。	目標値	—	1,691	1,673	1,686	1,666	1,666			
	実績値	1,355	1,457							
	達成率		86.2%							
整理番号	子ども-06-25	事業名	子ども会館・子どもの家整備事業							
指標の内容	放課後子ども総合プランの実施					単位	箇所	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に放課後子ども総合プランの実施を位置づけているため。	目標値	—	0	1	1	1	1			
	実績値	0	0							
	達成率									

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園は整備されてきているが、卒園後に利用する子どもの家のニーズ確保に努めてほしい。 ・子育て支援のハード面である施設の整備が充実しているが、支援内容の充実を図らなければ活用できない。ニーズに合ったものになるよう努力してほしい。 ・西鎌倉、岩瀬の子どもの家が学校から距離があるため、学校を活用した放課後プランを検討しているとのこと期待したい。 ・待機児童は施設整備を進めても潜在需要が顕在化するため、なかなかなくなる。今後の施設整備のあり方を検討することが必要である。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立保育所等への効果的な運営支援を行い、安定的な施設運営を維持するとともに、一時預かり、延長保育、病後児保育等多様な保育サービスの充実を図り、ニーズにあったものとなるよう努める。 ・にしかまくら子どもの家およびいわせ子どもの家の学校敷地内への移設に係る学校施設への給排水設備等の敷設状況等を考慮した具体的な建設敷地の決定への課題の整理後、移設に移る計画である。 ・待機児童を解消するために、施設の大規模化が進んだことで、公設公営による運営に支障が生じており、事業の見直しが必要であると認識している。
---	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・計画通り事業を実施するのではなく、環境や現況の変化に合わせて事業を実施している。また、課題についても適切に把握している。
- ・県内ワースト4位という数字ではあるが、待機児童解消にむけての様々な対応、また、子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、子育て環境の充実をめざし、施設を整えつつある。
- ・場所の確保等、多くの問題を抱える中で着々と調整を進めていることが伺える。
- ・材木座保育園・稲瀬川保育園の統合保育園となる(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設に向けた諸手続きを円滑に推進した。
- ・学校敷地内の移設は児童・保護者には便利ではあると思う。

評価の内訳						⇒	委員会の評価	
取組	↗	5	↘	0	→		3	↗
効果	○	2	△	1	—	5	—	

《課題》

- ・子どもの家のニーズ量の増加対策が問題である。
- ・子育て支援施設の名称が複数あり、これらの違いやサービスを受益者が本当に理解しているのだろうか、よりわかりやすい名称等を考えることが求められる。
- ・施設の整備はどこまで進めようとしているのか。目標数はあるのかが分からない。今後は限られた財源のなかで、創意工夫が求められる。
- ・誰のニーズに応えた分野・取組なのか、本当に子どものためになっているのかが分からない。

《提言》

- ・子どもの数が減少してきた場合、相対的にも実数でも高齢者が増加することとなる。限られた土地と建物を有効に活用し、変化に応じた活用が可能となる整備を行うべきである。子どもの家(学童クラブ機能)を学校内に整備する動きと連動して、子どもの家の再利用に高齢者も対象にすべきである。
- ・子育て支援施設として自治会館等の活用が出来ないか検討すべきである。
- ・施設面の充実には、物理的には限界があると思うが、市民や関係機関と連携をして、最大限の活用方法を検討・工夫をし、展開していただきたい。
- ・鎌倉市全体の受け入れ数を増やすことも重要であるが、地域別の分析を行い、今後どの地域を整備していくことが効果的かについても協議の上、進めていただきたい。出生率を考慮して施設整備が共働き家庭のニーズを受け止めているのか、将来を見据えた事業展開が必要である。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におくべきである。
- ・この分野に関し、総体的な意義をしっかりと捉えながら施策を展開していただきたい。